

P-5 埋伏歯の三次元的認識に関する研究

○阿部和久、*田中武昌、山崎要一、
緒方哲朗、早崎治明、石井光治、
中田 稔
九大・歯・小児歯
*九大・歯・歯科放射線

臨床において生体の外部形態を認識する方法としては、肉眼的あるいは印象採得法またはレーザーなどによる光学的手法などが現在行われている。一方、内部形態の認識方法としては、X線画像や超音波像などを用いているが、三次元的状態を捉えるには情報量に限界がある。そこで、今回演者らはコンピュータ断層撮影装置（CT）を用いることにより、現在まで困難であった歯槽骨内の歯根部や歯胚あるいは埋伏歯などの形態とそれらの相互的位置関係を三次元的に捉えようと試みたので報告する。

資料にはヒト小児乾燥頭蓋（乳歯列期）を用い、その上顎前歯歯根部に歯根の彎曲した歯牙を過剰歯として付着させ、歯列の印象採得を行った後、石膏模型を作製した。さらに上顎歯列弓にプラスチック製のシーネを作製し、基準点としてストッピングを28ポイント埋め込んだ。そのシーネを装着した乾燥頭蓋をコンピュータ断層撮影装置にて、スライス間隔1mmで連続撮影を行い、得られたCT画像より以下の検討を行った。

- 1) 歯牙および切歯乳頭部から埋伏歯までの距離計測
- 2) CT画像の三次元的表示
- 3) 仮想模型の作製

P-6 5歳児における歯磨き持続時間と清掃効果の関連について

○寺田ハルカ 緒方 克也

福岡市・緒方小児歯科医院

小児へのブラッシング指導は、小児の心身の発達を知り、その発達に応じた指導を行うことが大切である。そのためには、小児自身の現在の歯磨き能力を把握する必要がある。

そこで私達は、小児のブラッシングにおける清掃効果に影響を与える要因のひとつである歯磨きの持続時間に着目し、持続時間と、清掃効果の関連について調査した。

対象は、当歯科医院に来院した5歳児の乳歯列保有者とした。

方法は、対象者に歯垢染色液（Butler社 Red-Cote）の染め出しを行った後、日常行っている方法でのブラッシングを指示し、毎1分後の清掃状態をチャートに記録して評価するとした。そして清掃効果に変化がみられなくなった時点とその対象者のブラッシング能力の限界とし、その時間を記録した。

その結果、小児における歯磨き持続時間と清掃効果の関連について若干の知見を得たので報告する。